

岡山県立津山工業高校

竹の有効活用 ～循環型資源活用取組～

取組等の概要



竹の伐採から運び出し



竹チップの牛舎への利用



整備された竹林

岡山県北の地である美作地方は日本の多くの地域と同様に少子高齢化が進み、特に機械化が難しい畑や田が耕作放棄地になり、雑草が生い茂り、手入れされていない竹林が広がる風景がいたるところに見られます。平成27年6月に工業化学科の1年生40名が、「地域の山野の状況を知る森林活動」で体験したことから始まり、全7科の取り組みに発展した竹資源の有効活用取組をみなさんに紹介します。

岡山県農林水産総合センター森林研究所の協力で、27年12月に7学科の代表1年生21名が、勝間田の竹林の現状を見学し、竹を伐採し、竹炭作りを体験しました。それ以来生徒達の地道な取組が続けられており、竹林の整備事業も地域の理解が得られるようになり、近隣の竹林所有者の協力により、竹資材の確保も容易になりました。

竹林の伐採体験より始まった整備事業ですが、美作・津山地域に畜産農家も多いこともわかりました。そこで、微粉碎した竹チップを利用した牛舎敷料と使用済みの敷料を土質改良材として再利用する研究に取り組み、地域から大きな反響を頂きました。この取り組みは「2016高校生テクノフォーラム」で最優秀賞を頂きました。また和牛農家の竹チップが臭いを軽減するという感想から現在は、竹チップを活かした消臭材の研究や微粉化した竹チップを利用した植物の栽培効率の研究を行っています。

今年度は新型コロナウイルスの関係で例年通りの活動とはなっていませんが、先日竹林伐採を行いました。